

# ひとりごと

## 家族

「この研修で家族の大切さを再認識することになりますよ。」

知り合いにこう言われたことを痛感しています。

私は昨年度まで小学校で事務職員として働いていました。のどかなところで児童と冗談を言い合ったり、時には授業を見に行ったり、もちろん事務職員の業務もこなし、充実した8年間だったと思っています。

プライベートでは2年ほど前に第1子に恵まれ、念願のマイホームも購入し（地獄の35年ローンですが・・・）プライベートも充実していました。

元々東京への憧れはありました。3月下旬、文部科学省への派遣が決まった時は、誰しもが行けるところではないので非常に光栄な気持ちでした。また、単身赴任ではありますが東京で生活できる、とワクワクもしていました。

文部科学省で勉強させていただいているのですが、皆様の仕事の正確さ、スピード感に日々圧倒されています。また、私と違って頭の回転の速さにも驚くばかりです。小学校の事務職員としてそれなりに仕事をこなせていたので多少なり何とかなるかなと思っていた自分の考えが甘かったと日々感じています。係長をはじめ課の皆様のサポートがあり何とかしがみついている現状です。早くもっと仕事ができるようにレベルアップをしなければ・・・と思っています。

仕事で疲れた時これまでは「ただいま」と言えば「お帰り」と返してくれていた家族がいました。今は帰ったら当然誰もいなくて真っ暗な部屋に「ただいま」と言うこともなく、子どもと一緒に風呂に入ることもなく、家事をして眠る毎日です。

休みの日は憧れだった東京の街を歩き、すごいなあ、都会だなあと感心していました。しかし、当初、大きくて高いビルを目で追っていたのですが、最近はすれ違う小さな子どもや家族連れを目で追うようになりました。

また、妻にも礼を言っても言い尽くせないです。1歳半の子どもを一人で世話をして、今年度、育休から復帰して仕事もこなしています。大変になるにも関わらず、反対もせず、文句も言わずに賛成してくれてこの度の研修並びに単身赴任に協力してくれているので感謝しかありません。

GWは2日も6日もお休みをいただけたので存分に家族と過ごすことができました。子どもはまだ何とか父親の顔を覚えてくれていました。忘れられないように仕事の日程等が許せば度々帰って家族に会いたいと思います。

(T.N)